



地元企業を紹介!

問合先 まちの活性課 (☎469-3131)

市内の地元企業を、地元の高校生が訪問して紹介します。今回は、りんくうタウンにある「医療法人龍志会 IGTクリニック」を、府立佐野工科高等学校の生徒のみなさんが訪問しました。

今月の地元企業

医療法人龍志会 IGTクリニック

- 所在地…りんくう往来南3-41 (メディカルりんくうポート内)
- 院長…堀 信一
- 診療科…放射線科、内科

IGTクリニックは、血管内治療、温熱治療を行う「がん治療」の専門クリニックで、血管内治療ではCTを使った正確な画像診断や、日本で3施設にしかないIVR-CTで画像確認しながら、直径1mm程度のマイクロカテーテルを血管内に挿入し、患部に栄養を送っている動脈を細かい粒で詰めて栄養を絶つ「動脈塞栓術」という施術などが行われています。この「動脈塞栓術」に関して日本一の症例数を誇っています。

IGTクリニックを支えるスタッフの目標は「がんに困っている人の役に立つ」ことです。日本人の2人に1人が、がんに罹ると言われている中、がん患者さんが望む治療がどこでも受けられる社会になることを夢にしておられます。そして、「がん」という病気になった時にこそ「自分らしく生きる」術を考えるきっかけにして欲しいという想いを抱いています。



▲経営管理部 医療サポートグループ長 松本みほさん

Q 松本さんご自身は、どのようなきっかけで、IGTクリニックで今のお仕事をされるようになったのですか?

A IGTクリニックでの治療は、マスメディアでも多く紹介されていて病院が満床になる事もあると思います。診療や入院を断ったりされる事もあるのでしょうか?
A 確かに19床あるベッドは満床になりがちです。その中で1日に行われる血管内治療が6、7件、基本的に3泊程度の入院ですが、それぞれの患者さんの病状を確認しながら適切な診療のタイミングを図ることにより、出来る限りお断りすることがないようにしています。

A 私は元々、民間の病院で外科の看護師として勤めた後、さらに経験を積むため、ある大学の附属病院に転職し、いろいろな科でお仕事をしました。その後、私自身が死を意識するような体験を経て、自分が何をしたいのかを問い直した頃に、ちょうどIGTクリニックの堀先生の特集を運命的にテレビで見て、「これだ」と思いうすぐに雇ってもらえないかクリニックに電話しました(笑)。今は、患者さんの立場に立って、現場と患者さんを繋ぐお仕事として、治療に関することだけでなく、患者さんの不安を和らげるなどのフォローをしています。



▲訪問した府立佐野工科高等学校のみなさん (左から黒岩怜奈さん、田島恵夏さん、神宿内洋介さん、松木小次郎さん)

Q 現在のがん治療はどのような時期にきていますか?
A 近年、がんの早期発見が広く言われるようになり、勤務先での健康診断や、市町村での検診を受診する人が増えたため、発見されるがん患者の数は増加しましたが、がんが早期で発見される事に繋がり、多くのがんが治るようになったとも言われています。
そうした中で、がんを治療している患者さんのQOL (Quality of Life) がより良いものとなるよう、今後もそれぞれの患者さんに適した提案をしていきたいと思えます。